

重点施策15 図書館蔵書及び機能の充実

【施策方針】

地域文化の創造・発展に寄与するとともに、誰でも気楽に利用できる図書館を目指し、機能と経営の充実を図り、市民の読書意欲に応え、教養が深まる読書活動を推進する。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 蔵書内容の充実
- ② 読書活動の推進
- ③ システムの更新及びレファレンスサービスの充実

(2) 主な施策・事業の実施状況

① 蔵書内容の充実

図書館は、蔵書の充実が最優先課題である。予算編成時に、蔵書購入費用が削減の対象とならないように財政部門に対して説明している。

蔵書の選択については、図書館流通センターから出される新刊リスト、ベストセラー、市民からのリクエストにより決定した。

② 読書活動の推進

国の制定した「子どもの読書活動の推進計画に関する法律」に基づき、第二次の「八幡浜市子ども読書活動推進計画」の策定を図書館協議会委員とともに協議し、作成した。また、おはなしボランティア養成講座を開催し、読み聞かせボランティアグループの育成及び向上に努めた。

③ システムの更新及びレファレンスサービスの充実

老朽化した図書館のコンピュータシステムを更新し、利便性が向上した。

また、来館者が閲覧できる新聞のデータベースが利用可能となり、それによってレファレンスサービスの充実が図られた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 子どものときの本との出会いはとても重要で、「本を読んで知識を得る」「知りたいことを調べる」「正しい意味を繰り返し確認する」など、本がないと知識の発見も伝達も進歩もない。本と出会い、本好きの子どもを育てる役割として「ゆめいろポケット」の活動はとても重要である。今後も継続して、学校・保育所等での読み聞かせや本の紹介をしてほしい。

- 図書館は本をそろえ、利用者が読みたい本を見つけたり、調べたいことが分かる本を探したりするところである。また、利用者が来ることを待つだけではなく、図書館から「ぜひ読んでほしい本」「生活に役に立つ本」「心を打たれる本」などを、ホームページ等で発信してほしい。
- 利用者は、幼児から若者、高齢者、障がい者等まで多様であり、本や図書館スペース利用は公共性が高いし、マナーを守らなければならない。そこで、幼児が好む「絵本」「図鑑」などの本に親しむスペースと、静かに読んだり調べたりする本を熟読するスペースは、区別するなどの配慮が必要だと思う。読書コーナーの席の位置、仕切り板の工夫などによって、読書環境づくりを図ってほしい。

【自己評価】

- 読み聞かせボランティア団体との連携をさらに深め、活動が継続できるよう今後も支援していきたい。また、図書館から学校等に本を持ち込む「みかんぽんぽん文庫」、団体貸出、出張おはなし会及びブックトーク事業を実施し、図書にふれる機会を増やしたい。
- 図書館では、広報、ホームページ及びCATVで情報を発信している。また、館内では季節や行事等に応じたテーマ展示を行っている。利用者にとって必要な情報を発信するように努めたい。
- 幼児コーナーと他のコーナーを物理的に区切ることは、予算面や環境面から困難である。幼児が騒がしい場合は、図書館から幼児や保護者に積極的に声をかけ、マナーの向上を図りたい。それぞれの利用者がマナーを守り快適に読書ができる環境づくりに努めたい。